

授業科目の概要			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科共通科目	教育課程編成の今日的課題	本講義は、3つのアプローチで、今日的な教育課程の編成の課題について検討する。まず、主として文献を講読しながら、学力観、幼稚園教育要領・学習指導要領の変遷とそれに伴った教育課程の編成について整理する。次いで、現行の学習指導要領の特徴（基礎基本の徹底、思考力・判断力・表現力の育成、生きる力の育成、教育の情報化への対応等）に基づき、いくつかの学校園の教育課程の編成を評価し、その改善点を考察する（事例分析）。そして、最後に、所属校園または実習予定校の学力実態を踏まえ、その向上を目指す教育課程編成案を策定する。	共同
	カリキュラム・マネジメントの理論と実践	「カリキュラム・マネジメント」概念の台頭に至る、カリキュラム開発研究の理論的發展について考察する。また、そのモデルをもとに、好事例に接近する。さらに、幼稚園教育要領および学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメントの重要性や「主体的・対話的で深い学び」との関係についても論ずる。	共同
	指導科法等に関する実践的領域	児童・生徒に資質・能力を育成するための習得・活用・探究型授業の実践的手法をその理論的背景と共に提示する。受講生がグループを構成し、各グループが研究課題をもち、授業を組み立てる。その後、その授業を実践し、学校現場からの評価を得ることなどの方法を考え、研究課題の特徴を実証的に分析する。最後に各グループの経験が共有化されるように、得られた知見をレポート集としてまとめる。以上を通して授業実践手法のレパートリーを広げるとともに、実証的な効果研究の手法を身につけられるようにする。	共同
	相生徒指導に関する領域	学校現場における子どもの心理的・発達の問題の基礎的理論を講義し、およびそれに基づく対処方法について、理論的・実践的検討をワークショップ形式も取り入れながら行っていく。具体的には、最新の研究知見に基づいた諸問題のメカニズム、および今学校現場で実際に起こっている事例を紹介する。その上で、グループディスカッション等を通じて、受講者自身が当該問題に関して主体的に考える機会も併せて提供する。	共同
	経営に経営者としての領域	学校経営と学級経営について理論的に整理し、実践事例について検討する。学校の自律・協働・参加を軸にした学校づくりの枠組を考えながら、事例にそって問題分析する。特に、教職員の協働、児童生徒の学級集団づくり、学校と地域の連携、学校と教育委員会のパートナーシップなどをテーマに扱い、学校の教育活動の組織化について理解を深める。そして、実践事例を検討することを通して、組織人としての発想と実践力を育てていく。 (なお、本科目で対象とする「学校」は、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校である。)	共同
	在学期間に育関する領域	本講義は、教職大学院の第IVセメスターに位置づく。それゆえ、受講者は、教職大学院における学びを「教師力」と「学校力」という視点で総覧するとともに、それを高めるためのプランを具体的に検討する。そのために、まず、受講者は、「教員の育成指標」をツールとして、それまでの教職大学院における学びを整理する。また、自らの力量を総点検し、それを高めるための行動計画を策定し、それを相互に批評する。次いで、受講者は、「チーム学校」の考え方をもち、実習校等の学校改革の方途を構想し、交流する。	共同
	現代的教科目	複合的分野といわれる教育研究は、研究の目的や条件に沿って、必要な研究方法を組み合わせることで研究課題を明らかにするとされる。本授業では「実践課題研究」に向けて、それぞれが取り組む研究の特性と課題に即して、より適切な研究方法を選択できる広い知識と学術的技術を修得するため、教育研究の分野で主に用いられている研究方法に焦点を絞り、理論を踏まえて事例をもとにそれぞれの手法を学ぶ。いくつかに必要とされる実践的能力と危機管理に携わる基礎的な対応能力の育成を目指す。	共同

研究科共通科目	現代的教育科目	学校安全と危機管理	<p>三段階予防（1次予防・2次予防・3次予防）の観点から、これからの学校園における安全推進を目的とした安全教育・安全管理や組織活動の展開を担う教員にとって必要とされる基本的事項について解説する。さらに学校安全の先導的な事例の紹介や実際の活動への参加・見学、また具体的な学校危機事例に基づく演習を通じて、これからのわが国の教育現場における学校安全の現状を改善・発展させていくために必要とされる実践的能力と危機管理に携わる基礎的な対応能力の育成を目指す。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （／9回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校園における安全教育（生活安全領域）の課題と今後の展開</li> <li>・不審者対応訓練を通じた危機管理マニュアルの実践的活用</li> <li>・教育行政の視点から考えられる今後の課題</li> <li>・チーム学校の視点から考えられる今後の課題</li> <li>・諸外国における学校安全と危機管理の現状と今後の課題</li> <li>・まとめ （／2回）</li> <li>・学校園における安全教育・管理（災害安全領域）の課題と今後の展開 （／1回）</li> <li>・学校園における安全教育・管理（災害安全領域）の課題と今後の展開 （／3回）</li> <li>・学校事故対応や学校危機介入の基本的な姿勢</li> <li>・1次予防の観点から、学校安全の実際 （3回）</li> <li>・2次予防の観点から、学校危機発生後の心のケア</li> <li>・3次予防の観点から、学校危機発生後の学校・学級経営 （／15回）</li> </ul>	共同・オムニバス
		人権教育の課題と実践	<p>本講義では、第一に、教職員の人権意識の現状と課題について、各自の自己洞察を踏まえ、幾つかの調査結果を用いながら考察する。第二に、戦後の同和教育から現在に至るまでの人権教育実践事例の中から、いくつかの転換点となった事例を用いて、各自の実践をふりかえり、人権教育の今後の在り方について考察する。第三に、経験の少ない教職員の人権感覚を養うために、人権教育研修に求められる今日の課題について事例を通して学ぶ。上記により、学校におけるChange Agent（変革推進者）として改革プランを作成・報告し、相互評価する。なお、本講義は、原則として、参加と協同の原則に基づいてワークショップの手法を用いて行う。</p>	
		健康教育の理解と実践	<p>主として教育課程の特別活動において実践される集団の保健指導を想定し、健康に関する現代的課題の理解、学校教育活動における健康教育実践の知識及び方法を学修させる。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （／10回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育と子どもの健康</li> <li>・健康課題と予防的介入の視点：対人関係と疾病</li> <li>・健康教育実践の方法：1子どもの健康実態の把握 2指導計画の立案 4学習指導案の作成 5授業評価及び介入効果の検討 6個別の健康相談及び保健指導につなげる方法</li> <li>・健康教育実践の展開：1学級活動における実践 2児童会活動・生徒会活動における実践 3学校保健委員会における実践 （／3回）</li> <li>・健康教育の目的と意義</li> <li>・健康課題と予防的介入の視点：1生活環境と疾病 2生活習慣と疾病 （／2回）</li> <li>・健康課題と予防的介入の視点：3生活行動と疾病（危険行動を中心に）</li> <li>・健康教育実践の方法：3ICTを活用した教材の作成</li> </ul>	オムニバス
		子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	<p>この授業では、貧困や虐待がどのように子どもと教育現場に影響を与えているのかについて、講義やデータ、映像資料から理解を得る。次に、貧困や虐待の被害を受けている子どもが学校現場で抱える課題、たとえば、不登校、いじめ加害・被害、自傷行為、暴言と暴力等々の側面から事例を踏まえ検討する。加えて、教師が使える援助技法について解説する。最後に個別支援と学級集団づくりの文脈の中でどのように支援していけば良いのかについて教師の視点から考える。</p>	
		社会的包摂のための諸施設に関する実践的探究	<p>マイノリティ、障がい、貧困等により不利な状況にある全ての幼児・児童・生徒を包摂する社会的・制度的仕組みを理論的かつ実践的に知るために、乳児院、適応指導教室、児童自立支援施設、児童養護施設等を対象にした理論的学習を行う。また、受講生が分担して本授業科目が指定する機関で実習を行い、そこでの経験を共有化しよう導く。さらに、校内での教員以外の専門職との連携の在り方の実際を实地に知る機会を与える。最後に全体を俯瞰して、インタープロフェッショナル教育の内容を考案するというパフォーマンス課題を与え評価する。</p>	共同
		特別ニーズ教育の理論と実践	<p>特別なニーズのある子どもの教育をめぐる基本的課題と教育方法や研究方法について、特別支援教育学・特別支援心理学・特別支援臨床学の各専門分野から多角的に講義を行う。講義の内容は特定の障がい種への支援教育や重複障がいへの支援教育だけでなく、それらの教育に必要な医療体制、障がい理解、特別支援教育の理念なども含める。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （／1回）・特別支援教育の基本的課題と研究方法 （／1回）・視覚障がい教育 （／1回）・聴覚障がい教育 （／2回）・知的障がい教育 ・特別支援教育と障がい理解 （／3回）・肢体不自由教育 ・情緒障がい教育 ・重複障がい教育 （／2回）・病弱教育 ・特別支援教育と健康行動学 （／1回）・発達障がい教育 （／1回）・特別支援教育とユニバーサルな授業づくり （／1回）・特別支援教育と医療体制 （／2回）・特別支援教育における今日的課題 ・まとめ</p>	オムニバス

<p>学校実習科目</p>	<p>基本学校実習Ⅰ</p>	<p>本科目では1回当たり5時間程度の実習を毎週2回で6週間にわたって実施することを標準とするが、課題やニーズに応じて毎週4回で3週間の実習にすること、あるいは毎週1回で12週間の実習にすることも可とする。</p> <p>【現職教員院生】 勤務する学校や教育委員会において、学校課題を解決しようとするリーダーの諸活動を対象にして、専門職としていかなる専門性を有し、活動を展開しているかについて、観察やその仕事の一部に携わることとおして、全体像を再確認させる。その際には、共通科目における講義等で提示した視点を活用させる。次いで、多様なマネジメント的活動の中から受講者それぞれに追究すべき課題を設定させ、それに基づいた調査や実践を繰り返させる。さらに、それらの調査・実践の過程や成果等をポートフォリオに整理して、他の受講者と共有させる。</p> <p>【学部卒院生】 勤務校や免許種に対応する実習校において、授業を開発し学校課題を解決しようとしている教員の諸活動を対象にして専門職としていかなる専門性を有し、活動を展開しているかについて、観察やその仕事の一部にたずさわることとおして、全体像を再確認させる。その際には、共通科目における講義等で提示した視点を活用させる。次いで、多様な授業開発活動の中から受講者それぞれに追究すべき課題を設定させ、それに基づいた調査や実践を繰り返させる。さらに、それらの調査・実践の過程や成果等をポートフォリオに整理して、他の受講者と共有させる。</p>	
	<p>基本学校実習Ⅱ</p>	<p>本科目では1回当たり5時間程度の実習を毎週2回で6週間にわたって実施することを標準とするが、課題やニーズに応じて毎週4回で3週間の実習にすること、あるいは毎週1回で12週間の実習にすることも可とする。</p> <p>【現職教員院生】 勤務する学校や教育委員会において、学校課題を解決しようとするリーダーの実際の一つの活動の一部または全部を担わせ、当該活動の可能性と課題を多面的・実践的に考察させる。その際には、ポートフォリオを作成させるとともに、関連する共通科目の講義の内容を関連づけさせる。さらに、それを通して、「実践課題研究Ⅰ」のテーマと具体的な研究計画を策定して発表させ、相互批評させる。</p> <p>【学部卒院生】 免許種に対応する実習校において、授業を開発し学校課題を解決しようとしている教員の実際の一つの活動の一部または全部を担わせ、当該活動の可能性と課題を多面的・実践的に考察させる。その際には、ポートフォリオを作成させるとともに、関連する共通科目の講義の内容を関連づけさせる。さらに、それを通して、「実践課題研究Ⅰ」のテーマと具体的な研究計画を策定して発表させ、相互批評させる。</p>	
	<p>発展課題実習Ⅰ</p>	<p>課題研究科目で設定する自らの課題に則した実習を行うものであり、実習校としては、基本学校実習と同様の附属学校、併設校、連携協力校において実施する。各自の「実践課題研究テーマ」に沿って、研究を追究するために適切な実習先を選択するとともに、実習中に必要な活動を具体的に計画し研究を遂行する。多様な教育現場を体験するための特別プログラムとして、連携協力校以外の機関において、行政研修、他校種、他機関、他地域、海外などの実習を選択し、当該科目の一部を代替できるものとする。なお、本科目では1回当たり7.5時間程度の実習を毎週2回で6週間にわたって実施することを標準とするが、課題やニーズに応じて毎週4回で3週間の実習にすること、あるいは毎週1回で12週間の実習にすることも可とする。</p> <p>【現職教員院生】 第1、2セメスターでの理論的学習と学校実習科目での実践的学習体験を往還させながら、勤務する学校や教育委員会の組織課題を解決するための取り組みに、勤務校の管理職と調整をしながら、着手させる。そして、その可能性と課題を多面的・実践的に考察させる。その際には、ポートフォリオを作成させるとともに、関連する共通科目の講義の内容を関連づけさせる。さらに、それを通して、実践課題研究Ⅱのテーマと具体的な研究計画を策定して発表させ、相互批評させる。</p> <p>【学部卒院生】 第1、2セメスターでの理論的学習と学校実習科目での実践的学習体験を往還させながら、免許種に対応する実習校における具体的な教育実践の開発に関わる課題に対して、実習校の管理職等と調整を経たのち、独自の工夫を加えた解決を試み、その可能性と課題を多面的・実践的に考察させる。その際には、ポートフォリオを作成させるとともに、関連する共通科目の講義の内容を関連づけさせる。さらに、それを通して、実践課題研究Ⅱのテーマと具体的な研究計画を策定して発表させ、相互批評させる。</p>	
	<p>発展課題実習Ⅱ</p>	<p>本科目は発展課題実習Ⅰに続く実習としてその内容をさらに深めるための科目である。課題研究科目における「実践課題研究テーマ」を追究するために適切な実習先を選択するとともに、最終となる実習中に必要な活動を具体的に計画し、研究を完成する。多様な教育現場を体験するための特別プログラムとして、連携協力校以外の機関において、行政研修、他校種、他機関、他地域、海外などの実習を選択し、当該科目の一部を代替できるものとする。なお、本科目では1回当たり7.5時間程度の実習を毎週2回で6週間にわたって実施することを標準とするが、課題やニーズに応じて毎週4回で3週間の実習にすること、あるいは毎週1回で12週間の実習にすることも可とする。</p> <p>【現職教員院生】 第3セメスターでの理論的学習と学校実習科目での実践的学習体験を往還させながら、勤務する学校や教育委員会の組織課題を解決するための試みを、発展課題実習Ⅰの経験を踏まえて改善させ、その可能性と課題を多面的・実践的に考察させる。その際には、ポートフォリオを作成させるとともに、関連する共通科目の講義の内容を関連づけさせる。さらに、それを通して、実践課題研究Ⅱの理論研究の成果とも関連づけて発表させ、相互批評させる。</p> <p>【学部卒院生】 第3セメスターでの理論的学習と学校実習科目での実践的学習体験を往還させながら、実習校や教育委員会の具体的な教育実践の開発に関わる課題に対する独自の工夫を加えた解決の試みを、発展課題実習Ⅰの経験を踏まえて改善させ、その可能性と課題を多面的・実践的に考察させる。その際には、ポートフォリオを作成させるとともに、関連する共通科目の講義の内容を関連づけさせる。さらに、それを通して、実践課題研究Ⅱの理論研究の成果とも関連づけて発表させ、相互批評させる。</p>	

教育実践力 コース科目	教育実践の研究手法	前半は講義および演習により、教育実践の研究手法について理解し、修得する。後半はその手法を用いた実践場面分析に取り組む。	共同
	協働的プロジェクト演習	校園種や教科領域の専門が異なる院生の3~5名程度のチームで、園などでの総合的な活動や、学校での総合的な学習の時間の授業設計等につながる学習プロジェクトを計画・実践する。	共同
	カリキュラム・マネジメントの展開	共通科目「カリキュラム・マネジメントの理論と実践」や選択科目群の学修成果や各自の研究テーマへの取り組みなどを生かし、3~5名程度のチームでカリキュラム・マネジメント構想を作成し、全体で共有・議論し、成果をまとめる。	共同
	Eラーニング	Eラーニングシステムの基礎（情報機器、ソフトウェア、ネットワーク）と各種応用事例、ならびに、システム構築の基本（企画・要件定義、設計・試作、評価、管理・運用）について、利用者の立場から、デジタル学習環境を活用した学習と討論を行う。 また、各種の教育活動を念頭において、デジタル学習環境の利用効果が高いと思われる具体的な課題を選定し、その課題解決に最適なEラーニングシステムの企画・立案、マルチメディア教材の試作、システム構築と運用・管理について実践的な演習を行う。	
	国際教育比較実践交流	次の3つのトピックについて、講義、グループワーク（日本との比較という視点から資料分析と討論）を行う。 1ドイツの教育制度と改革：PISAショック、コンピテンシー中心の学び 2クラスにおける非同質性の問題：移民の背景を持つ子どもたち、ドイツ語教育 3歴史教育：負の遺産、記憶の文化	
	総合的な学習の開発と実践	幼児教育を基盤とし、高等学校にまで至る探究的な見方・考え方についてのシーケンスとスコープについての理解、主として平成10年度以降の総合的な学習の実践記録や授業ビデオの分析、現代的な課題に対応して求められる資質・能力を培う総合的な学習のカリキュラムの研究と開発を行う。	
選択科目 A群	カリキュラムデザイン演習A~C （言語と文化） （個人と社会） （科学と数学） （身体と表現）	共通科目「カリキュラム・マネジメントの理論と実践」の修得をうけ、効果的な年間指導計画等の在り方等を追求し、校種間接続なども視野に入れながら、学校の特性や課題に応じた教科領域に関するカリキュラムを設計する。また、カリキュラムの評価・改善の方策について、具体案を作成し検証する。カリキュラムの設計・評価・改善にあたっては、「授業研究演習」「教材・題材開発研究」および「学校実習」との往還・接続をはかりながら進める。	
	カリキュラムデザイン演習 （言語と文化）A	学校教育における「言語と文化」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、国語科カリキュラムのあり方について検討し、後半では、受講者自身が国語科に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインに取り組み、授業の具体的な方途について検証する。	
	カリキュラムデザイン演習 （言語と文化）B	学校教育における「言語と文化」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、英語のカリキュラムのあり方について検討し、後半では、受講者自身が英語に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
	カリキュラムデザイン演習 （個人と社会）A	学校教育における「個人と社会」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、ESDの構成概念に基づいた家庭教育カリキュラムの在り方について検討し、後半では、受講者自身がSDG'sと生活をつなげた家庭教育に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
	カリキュラムデザイン演習 （個人と社会）B	学校教育における「個人と社会」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、社会系教科のカリキュラムの在り方について検討し、後半では、受講者自身が個人と社会に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
	カリキュラムデザイン演習 （科学と数学）A	学校教育における「科学と数学」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、理科のカリキュラムの在り方について検討し、後半では、受講者自身が理科に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
	カリキュラムデザイン演習 （科学と数学）B	学校教育における「科学と数学」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、中学校技術・家庭科技術分野のカリキュラムのあり方について検討し、後半では、受講者自身が中学校技術・家庭科技術分野に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
	カリキュラムデザイン演習 （科学と数学）C	学校教育における「科学と数学」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、算数・数学のカリキュラムのあり方について検討し、後半では、受講者自身が算数・数学に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
	カリキュラムデザイン演習 （身体と表現）A	学校教育における「身体と表現」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、音楽的思考を伴う表現及び鑑賞のカリキュラムのあり方について検討し、後半では、受講者自身が音楽的思考を伴う表現及び鑑賞に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
	カリキュラムデザイン演習 （身体と表現）B-1	学校教育における「身体と表現」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、造形表現のカリキュラムのあり方について検討し、後半では、受講者自身が造形表現に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
	カリキュラムデザイン演習 （身体と表現）B-2	学校教育における「身体と表現」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、書写書道のカリキュラムのあり方について検討し、後半では、受講者自身が主に芸術書道に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。	
カリキュラムデザイン演習 （身体と表現）C	学校教育における「身体と表現」をめぐるカリキュラムについて、校種連携や教科横断的な視点で概説した上で、体育・保健体育のカリキュラムのあり方について検討し、後半では、受講者自身が体育・保健体育に関するテーマを決め、協働でカリキュラムデザインの具体化に取り組み、具体案について検証する。		

教育実践力コース科目	選択科目 B群	授業研究演習A～C (言語と文化) (個人と社会) (科学と数学) (身体と表現)	教科領域の授業を研究的に捉えるための理論と方法を習得し、単元の指導計画の作成・授業実践・研究的授業分析・授業改善につなげる。授業実践・授業分析にあたっては、「カリキュラムデザイン演習」「教材・題材開発研究」および「学校実習」との往還・接続をはかりながら進めるとともに、教科教育の学会や地域の教育研究会などの研究会を積極的に活用し、授業研究の効果と課題などを実践的に理解する。	
		授業研究演習 (言語と文化) A [国語]	小学校、中学校で使用されている国語教科書を分析対象に、国語教材がその学習指導の過程において、どのような学力形成のための系統性を備えているのかを明らかにするとともに、教材間のつながりを意識した国語科授業を構想する。	
		授業研究演習 (言語と文化) B [英語]	4技能5領域および文法・音声・語彙などの言語材料の指導法について概説、実践するとともに、学習指導案の作成、授業の記録・分析方法について理解と実践的活用を進めていく。	
		授業研究演習 (個人と社会) A [家庭科]	家庭科の授業に関する諸課題について、各自の課題に基づき実証的に考究する。	共同
		授業研究演習 (個人と社会) B [社会a]	本授業では授業分析の方法とその教育的価値を理解するための事例研究をおこなう。それらのことを通して、授業記録作成のための要件を理解し、授業記録作成に有為に用いることのできる撮影・録音の技術的留意点に気づく。さらに、逐語記録作成上の留意点を踏まえて、実際の授業記録を作成し、その記述を用いた考察をおこなうことで、授業分析の手法を体得し、教育実践の改善に資する授業研究方法を体得することをめざす。	
		授業研究演習 (個人と社会) B [社会b]	社会科授業づくりの理論と実践について学ぶ。社会科における教材の選択と構成、学習課題と学習活動のデザイン、学習評価と授業改善の方策について、文献の購読と授業実践の検討を通して基本的な理解を身につける。	
		授業研究演習 (個人と社会) C [道徳]	「特別の教科 道徳」で求められる指導方法について、前半では多様な指導方法について理論的に概説し授業づくりを行わせることで、多様な指導方法に関する理解と技能を向上させる。後半では前半での学習をふまえ、「情報モラル」「生命尊重」「校種間連携」等の現代的課題に応える道徳授業について分析・立案を行い、授業研究能力の形成を図る。 (オムニバス方式／全15回) ( /8回) ・情報モラルの授業構造、指導案作成 ・生命尊重の授業分析、指導案作成 ・校種間連携と道徳授業、指導案作成 ( /9回) ・「特別の教科 道徳」における多様な指導方法 ・自我関与中心の学習を生かした授業づくり ・問題解決的な学習を生かした授業づくり ・体験的な学習を生かした授業づくり	オムニバス
		授業研究演習 (科学と数学) A [理科]	理科の授業研究の手法である質的調査法や量的調査法の基本を具体例とともに理解し、実際の授業改善に授業研究手法を取り入れて試行させ、授業研究のスキル形成と見識を深めさせる。	
		授業研究演習 (科学と数学) B [技術]	技術教育について教員として自身の授業を研究し改善する方法をとりあげ演習する。そのため、受講生の授業実践を具体例として、授業目標の明確化、教材研究、授業評価、改善について指導する。	
		授業研究演習 (科学と数学) C [算数・数学]	これまでに培った基礎能力を一層深め、専門分野や教育実践に関する理論と応用についての研究能力を伸ばすことによって、算数・数学の授業研究の方法について分析・考察し、議論することができるようにする。その上で、算数・数学において、論理的に正しく考え、何が大切かを理解するとともに、その内容をどう教えたらわかりやすいのかを考えることにより、数学的な能力と数学教育の理解を深める。授業実践・授業分析にあたっては、学会や地域の教育研究会などの研究会を積極的に活用し、授業研究の効果と課題などを実践的に理解する。 (オムニバス方式／全15回) ( /8回) ・算数科・数学科の授業分析の視点と方法 ( /7回) ・数学科教材研究・学習指導案の作成	オムニバス
		授業研究演習 (身体と表現) A [音楽]	授業分析によって、授業中の子どもの思考と表現の道筋を見る目をもてるようにし、そこで得た知見や視点および自らの研究テーマを基に授業デザインを行い、実践、検証することで、新しい姿の音楽科授業を創出できるようにする。	共同
		授業研究演習 (身体と表現) B [図画工作・美術]	子どもの造形行為の評価について、近代の造形教育研究を概説する。また授業記録・分析方法の理解と実践的活用を進める。その上で、実際の授業評価・改善を子どもの造形行為の論理的視点で検討していく。	
授業研究演習 (身体と表現) B [書道]	小・中学校での国語科(書写)、高等学校での芸術科書道のつながりを、学習指導要領での位置づけから体系的につかみ、それぞれの学習目的を明確にし指導計画を立案する。その上で、単元ごとの教材分析から指導案の立案を行い、模擬授業につなげたり、現場での教科研究会に参加する等したりして、より具体的に児童・生徒の実態に応じた指導の在り方を考察する。			
授業研究演習 (身体と表現) C [体育・保健体育]	体育科・保健体育科の授業研究の視点と、授業研究を深めていく手順と方法について、授業実践をもとに掘り下げていく。加えて、授業研究のねらい・目的を明確に保つことの意義について理解を深める。			

教育実践力 コース科目	選択科目 C群	教材・題材開発研究 A～C-a～d (言語と文化) (個人と社会) (科学と数学) (身体と表現)	児童生徒の資質能力の育成のための目標設定を起点に、教科領域の学習内容を先端的に研究する。その成果として、課題意識に基づいた教材・題材を開発し検証する。教材・題材開発と検証にあたっては、必要に応じて「カリキュラムデザイン演習」「授業研究演習」および「学校実習」との往還・接続をはかりながら進める。	
		教材・題材開発研究 (言語と文化) A [音声言語表現]	談話を文字化資料化する方法と話体論的特徴について説明し、授業ごとに各種の観点からのスピーチを行い、話体の特徴を捉える練習をする。授業参観を実施し、授業記録の文字化資料をもとに、教師の発問と子どもの応答の関連、学習者相互の発話等の言語活動についての分析と発表を行い、討論をさせる。	
		教材・題材開発研究 (言語と文化) A [文字言語表現]	国語の文字言語表現領域の学習内容を踏まえ、教材・題材を先端的に開発研究する。国語の文字言語表現分野に関する学習内容のトピックを複数取り上げ、その内容の探求を深めるとともに、教材・題材開発とその検証を行う。	
		教材・題材開発研究 (言語と文化) A [古典文学]	小学校、中学校、高等学校の国語教科書でとりあげられている古典文学作品について、語釈、解釈の作業を行い成果を発表する。また新しい授業を構築するための視点の獲得もねらう。国語教科書における古典文学の扱いについて探求することもめざしているため、その作業に向けた準備学習、下調べを課す。	
		教材・題材開発研究 (言語と文化) A [児童文学]	小中学校の国語教育分野領域の学習内容を踏まえ、国語教材として用いられている近現代文学、児童文学の中から代表的なものを複数取り上げ、それぞれに関する知識を深める。併せて先端の文学研究の論文を精読し、その知見を踏まえた上で、改めて教材分析を行い、新たな教材研究を行う。	
		教材・題材開発研究 (言語と文化) B [英語教育とICT]	コミュニケーション能力と英語運用能力を高めるためのICTを活用した教材作成の方法、および教材管理方法、学習履歴分析等の授業運営の効率化についての理論と実践を学ぶ。	
		教材・題材開発研究 (言語と文化) B [英文法・英作文]	英文法の原典から英文法の知識を読み取り、学校文法で教えられている知識と比較検討する。それにより、英語の授業で提供すべき英文法の内容や指導の在り方を検討する。それをもとにして、英語の授業における英作文の指導や教材作成に活かすための方策を考える。	
		教材・題材開発研究 (言語と文化) B [小学校英語]	初等英語教育研究の動向を探るとともに、学習方略、教授方法、教授資料の選定方法等について学び、小学校レベルにおける外国語教育のあり方を考究する。	
		教材・題材開発研究 (言語と文化) B [リスニング・リーディング]	「読む」「聞く」ということについて言語理解処理の観点から概観して、そこから得られる知見を基にリーディング・リスニングに関する教材・題材を開発するとともに、その指導をより効果的にする方法について検討する。	
		教材・題材開発研究 (個人と社会) A [食育]	行政的な食育の概要と食に関する指導について、また、食行動の概要や食事の機能、国語や理科と家庭科をリンクさせる教材などについて実習も取り入れた授業を行う。	
		教材・題材開発研究 (個人と社会) A [食と健康]	食生活における現代的課題について、「栄養素および非栄養素」「健康」をキーワードに探究し、理解を深めるとともにディスカッションを行い教材・題材の開発を行う。	
		教材・題材開発研究 (個人と社会) A [家族と保育]	現代社会における家族・家庭および保育や子どもを取り巻く環境とその関係性に関心を持ち、それらの事象の具体的な意味だけでなく歴史的な変遷などにわたり講義、討議を行う。受講者による発表の機会も設ける。また具体的なそれぞれの授業の場を想定した教材の活用や、実践的な授業を意識した演習などを取り入れた授業を行う。また保育体験として、保育所、子育て支援センターの見学を予定している。	
		教材・題材開発研究 (個人と社会) A [被服と生活]	家庭科被服領域の学習内容を踏まえ、教材・題材を実験的要素を取り入れて開発研究する。被服分野に関する学習内容における実験の有効性を確認し、その内容の探求を深めるとともに、教材・題材開発とその検証を行う。	
		教材・題材開発研究 (個人と社会) A [消費生活と環境]	学校教育における消費者教育と住教育について理解を深め、題材構成や教材を検討する。 (オムニバス方式/全8回) ( /3回) ・消費生活と環境をめぐる問題状況及び基本的事項の理解 ・オリエンテーション、総合討議とまとめ ( /3回) ・消費生活と環境に関する学習題材の構成 ・教材開発 ・開発した教材を用いて授業計画を作成する ( /2回) ・住環境と住まい・まち学習に関する学習題材の構成 ・教材開発	オムニバス
		教材・題材開発研究 (個人と社会) B [いのち教育]	いのち教育の前提となる、社会や心性の変化を研究する。社会科の教科書や道徳の副教材を題材に、学校現場でのいのち教育の現状を把握する。いのち教育の教材・題材開発とその検証を行う。	
教材・題材開発研究 (個人と社会) B [哲学]	哲学の基本問題を理解するとともに、教材・題材を先端的に開発研究する。テキストを精読しながら、参加者同士で議論していく。			
教材・題材開発研究 (個人と社会) B [倫理]	倫理学と関連する社会科分野の学習内容をふまえ、教材・題材を先端的に開発研究する。倫理学の観点から社会科の学習内容を多面的・多角的に考察し、その成果を授業構成に活かすことができるよう教材研究を行う。			
教材・題材開発研究 (個人と社会) B [社会学a]	児童生徒が現代社会の成り立ちについて理解し、自分で考える能力を育成するため、社会学分野の考え方に基づいた教材・題材を先端的に開発研究し、検証する。			

教育実践力コース科目	選択科目 C群	教材・題材開発研究 (個人と社会) B [社会学b]	児童生徒が身近な社会現象について自分で調べ、発表・議論する能力を育成するため、社会調査の考え方に基づく調べ学習の教材・題材を先端的に開発研究し、検証する。	
		教材・題材開発研究 (個人と社会) B [法と社会]	学校教育における社会・特に公民系科目は、法学系の知識を多く含んでいる。本授業では、日々社会に生じる出来事を法学的に分析し、その知見から教科書の内容を比較検討し、どのような問題関心より題材を扱えばよいのかを検討する。特に基本的な価値である民主主義と立憲主義、その関係については、重点的に考察する。また将来的重要性にかんがみ、公害・環境問題にも重点を置く予定である。	
		教材・題材開発研究 (個人と社会) B [歴史]	歴史分野領域の学習内容を踏まえ、教材・題材を先端的に開発研究する。歴史分野に関する学習内容のトピックを複数取り上げ、その内容の探求を深めるとともに、教材・題材開発とその検証を行う。	
		教材・題材開発研究 (個人と社会) B [防災安全]	自然災害、犯罪被害、交通事故から児童生徒自身が身を守る能力を育成する教材開発を探索する。受講生が選択した地域に想定される自然災害、犯罪、交通事故の特徴を理解する。さらに、具体的防災、犯罪、交通事故情報を収集し教材化し、社会科および避難訓練、登下校安全指導などの活動に実践的に活用する練習を行う。	
		教材・題材開発研究 (個人と社会) B [地誌]	この授業は、小・中・高の地理分野の中の地誌に関する学習内容を踏まえ、教材・題材開発に必要な基本的技能を身につけること、その知識や技能を活用して、地誌教材の開発研究ができるようになることを目的とする。そのために、まず、小・中・高の地誌学習に共通する特徴や、教材作成のために必要とされる基本的な技能を理解してもらおう。その上で、受講生に具体的な地誌教材を作成してもらい、最後に、作成された教材の妥当性などについて検証を行う。	
		教材・題材開発研究 (個人と社会) B [地図]	地理分野の学習内容について、デジタル機器を使用した地図教材を開発するための知識・技能を習得することを目的とする。授業の前半(第2、3回)では、地図教材の事例を紹介した上で、それらを作成するために必要なソフトウェアやWEBサービスを用いた実習を行う。後半(第4～8回)では、タブレット端末および電子黒板を用いて、受講生が作成した地図教材による模擬授業を行う。	
		教材・題材開発研究 (個人と社会) C [道徳a]	道徳授業における絵本、文学作品、童話、新聞記事、視聴覚教材の使用のメリット、デメリット、注意点等について考究する。具体的には、作者の意図と作品の関係及びそれに基づいた道徳的価値の扱いを指導案の作成を通して学ぶ。	
		教材・題材開発研究 (個人と社会) C [道徳b]	現代的課題に取り組む道徳教育に求められる教材について探究する。具体的には、各教科における学習内容と関連づけた道徳の教材開発を行うとともに、それを用いて模擬授業等を実施することで、開発した教材の可能性と課題を明らかにする。	
		教材・題材開発研究 (科学と数学) A [物理]	長年様々な物理教育教材が開発されてきた。近年、教材に関するアイデアは、どれもすでに過去にあったと思って十分調べた方がよい。しかし、すでにあるアイデアに過去にはなかった技術(白色LED、コンピュータ、センサー、自動制御など)を取り入れ、目新しい教材として生徒や教員に楽しんでもらえるものを考案することは不可能ではない。この講義では、物理教育教材の調査を行い、自分のアイデアで新しい教材を開発する。	
		教材・題材開発研究 (科学と数学) A [化学]	理科(化学)分野領域の学習内容を踏まえ、教材・題材を先端的に開発研究する。理科(化学)分野に関する学習内容のトピックを複数取り上げ、その内容の探求を深めるとともに、教材・題材開発とその検証を行う。	
		教材・題材開発研究 (科学と数学) A [生物]	理科(生物分野)の生物教材を用いた実験観察を伴う単元をトピック的に取り上げ、その中から、受講生個々に課題意識を持って、生物教材に関する先端的な調査研究を行う。その結果を踏まえて、主体的に教材開発を実践し、その成果を発表し討論する。	
		教材・題材開発研究 (科学と数学) A [地学]	小・中・高等学校で行われている地学関連の観察や実験に関して、主なものをピックアップして内容を復習検討し、問題点を洗い出して、より効果的で実施も容易な観察や実験の教材研究を目指す。	
		教材・題材開発研究 (科学と数学) B [木材加工]	技術教育における木材加工に関わる学習を補助する教材、教材を有効に活用する授業案、学習の目標となる製作品の例、あるいは学習テーマについて、学習目標を明確にすること、既存教材・テーマの調査・分析、そして教材開発を指導する。	
		教材・題材開発研究 (科学と数学) B [金属加工]	技術教育における金属加工に関わる学習を補助する教材、教材を有効に活用する授業案、学習の目標となる製作品の例、あるいは学習テーマについて、学習目標を明確にすること、既存教材・テーマの調査・分析、そして開発を指導する。	
		教材・題材開発研究 (科学と数学) B [電気]	技術教育における電気に関わる学習を補助する教材、教材を有効に活用する授業案、学習の目標となる製作品の例、あるいは学習テーマについて、学習目標を明確にすること、既存教材・テーマの調査・分析、そして教材開発を指導する。	
		教材・題材開発研究 (科学と数学) B [情報]	技術教育における情報に関わる学習を補助する教材、教材を有効に活用する授業案、学習の目標となる製作品の例、あるいは学習テーマについて、学習目標を明確にすること、既存教材・テーマの調査・分析、そして開発を指導する。	
		教材・題材開発研究 (科学と数学) B [栽培]	技術教育における栽培に関わる学習内容を踏まえ、教材・題材を先端的に開発研究する。学習内容のトピックを複数取り上げ、その内容の探求を深めるとともに、教材園やICT機器を有効利用した教材・題材開発とその検証を行う。	
		教材・題材開発研究 (科学と数学) B [技術統合]	技術教育における各専門分野を統合した学習を補助する教材、教材を有効に活用する授業案、学習の目標となる製作品の例、あるいは学習テーマについて、学習目標を明確にすること、既存教材・テーマの調査・分析、そして教材開発を指導する。	共同
		教材・題材開発研究 (科学と数学) C [代数]	算数・数学に関する教科指導力の育成のために、その背景となる数学を、特に「代数学」の観点から先端的に研究する。その成果として、課題意識に基づいた教材・題材を開発し検証する。	
		教材・題材開発研究 (科学と数学) C [幾何]	小・中・高等学校の算数・数学の学習内容や方法を幾何学分野の領域に注目し、幾何学的な観点から概観する。得られた課題意識に基づいて、幾何学の研究と算数・数学教育への実践的な応用を試みる。	
教材・題材開発研究 (科学と数学) C [解析]	まず、小・中・高等学校の算数・数学を一貫した教科として捉え、学習内容や方法を特に解析学分野の領域に注目し、現代数学の観点から概観し、必要に応じて専門的な理論の習得する。その上で授業実践・分析と習得した理論の往還・接続をはかりながら教材の開発研究を進め、さらには授業研究の効果と課題などを実践的に理解する。			

教育実践力コース科目	選択科目 C群	教材・題材開発研究 (科学と数学) C [確率]	算数・数学に関する教科指導力の育成のために、その背景となる数学、ここでは、特に「確率論」の観点で先端的に研究する。その成果として、課題意識に基づいた教材・題材を開発し検証する。教材・題材開発と検証にあたっては、必要に応じて「カリキュラムデザイン演習」「授業研究演習」及び「学校実習」との往還・接続をはかりながら進める。	
		教材・題材開発研究 (科学と数学) C [応用数学]	算数・数学に関する教科指導力の育成のために、算数・数学の学習内容や、その背景となる数学、ここでは、特に「応用数学」の観点で先端的に研究する。その成果として、課題意識に基づいた教材・題材を開発し検証する。教材・題材開発と検証にあたっては、必要に応じて「カリキュラムデザイン演習」「授業研究演習」及び「学校実習」との往還・接続をはかりながら進める。	
		教材・題材開発研究 (科学と数学) C [数学教育]	算数・数学に関する教科指導力の育成のために、算数・数学の学習内容や、その背景となる数学、ここでは、特に「数学教育学」の観点で先端的に研究する。その中で、学校数学では余り扱わない先端的な数学を取り上げ、教材化の方法論を研究する。	
		教材・題材開発研究 (身体と表現) A [作曲]	作曲に関する題材を開発する。音楽の本質を作曲を通じて考え探求することを目標設定として、学習内容を先端的に研究する。その課題意識に基づいた題材を開発し検証していく。	
		教材・題材開発研究 (身体と表現) A [指揮]	指揮に関する題材を開発する。音楽の本質を指揮を通じて考え探求することを目標設定として、学習内容を先端的に研究する。その課題意識に基づいた題材を開発し検証していく。	
		教材・題材開発研究 (身体と表現) B [美術鑑賞]	美術鑑賞の基本として、作品に関する資料の収集法や鑑賞法を習得する。また、デジタル機器を活用した教材の開発を実践的に行う。	
		教材・題材開発研究 (身体と表現) B [書鑑賞]	歴史の中で生まれた古典に対する鑑賞眼を養う。また、生活の中で見られる書を通して鑑賞力を養う。日本における書の伝統を衰退させないためにも書鑑賞の授業は必要である。	
		教材・題材開発研究 (身体と表現) B [芸術と異文化交流1]	学術交流協定校等(海外大学)の学生と、芸術教育に関するワークショップや作品展示などを含めた学術交流を行い、成果をレポート・ポスターなどにまとめて発表する。	
		教材・題材開発研究 (身体と表現) B [芸術と異文化交流2]	教材・題材開発研究(身体と表現) B [芸術と異文化交流1]での成果・課題の振り返りを行い、芸術文化の学習内容についてテーマを探究する。自国の芸術文化についての理解を深めると同時に、ヴィジュアルコミュニケーションの方法を探る。ビデオ通話などメディアを用いた海外の学校との交流授業開発、実施およびその検証を行う。 (オムニバス方式/全8回(うち2回共同)) ( /5回) ・海外との美術交流授業の事例紹介 ・文化交流テーマとその探究 ( /5回) ・ビデオ通話などメディアを用いた海外の学校との交流授業開発、実施およびその検証	オムニバス
		教材・題材開発研究 (身体と表現) B [映像・メディア教育]	図画工作・美術に於ける映像・メディア教育分野の教材研究・開発を行う。前半はタブレットコンピュータを活用したICT教材の先行事例の調査・分析。後半は既存のAppを活用した演習モデルの企画・立案を行い、ICTを活用した授業実践への道筋をつける。	
		教材・題材開発研究 (身体と表現) C [剣道]	剣道に関する教材・題材を開発する。保健体育科の武道の授業における剣道の特性を踏まえ、剣道の授業の組み立て方について、学習指導の道筋に則して明確にしていくとともに、剣道の“簡単な試合”の考え方、進め方を具体的に示していく。その過程を通して、剣道に固有の価値が他の運動の学習においても共有される部分が少なくないことの経験的理解を目指す。	
		教材・題材開発研究 (身体と表現) C [柔道]	柔道に関する教材・題材を開発する。保健体育科の武道の授業における柔道の特性を踏まえ、柔道の授業の組み立て方について、学習指導の道筋に則して明確にしていくとともに、柔道の“簡単な試合”の考え方、進め方を具体的に示していく。また柔道の安全な指導法について、事例を通して理解を深めていく。これらの過程を通して、柔道に固有の価値が他の運動の学習においても共有される部分が少なくないことを明示する。	
		教材・題材開発研究 (身体と表現) C [球技]	小学校のゲーム・ボール運動、中学、高等学校の球技の学習指導について、ゴール型、ネット型、ベースボール型の類型ごとの特質を踏まえ、球技の内容を、年間計画、各学年でどのように配列していくことが大切かを具体的に掘り下げる。加えて、単元の仕組み方、学習集団の編成の仕方等についても実践的に掘り下げていく。	
		教材・題材開発研究 (身体と表現) C [器械運動]	器械運動に関する教材・題材を開発する。器械運動領域の学習内容を踏まえ、今日においてもなお根強く残っている勘違いの内容について知るとともに、技の指導方法についての理解を深める。	
		教材・題材開発研究 (身体と表現) C [保健]	学習指導要領の体育科・保健体育科における保健に関する学習内容を教科内容学的、教科教育学的視点から解説する。また、保健学習領域の学習内容を先端的に研究する。その上で、保健学習の課題・意義に基づいた教材・題材を開発し検証する。	
教材・題材開発研究 (身体と表現) C [健康・体力]	健康と体力に関する教材・題材を開発する。健康と体力との関係に焦点をあて、発育・発達や生理学的観点から児童・生徒の健康について実際の取り組みをもとに理解を深めていく。また、体づくり運動の心身への影響や科目内容としての学習指導ではカバーしきれない健康教育の取り組みについて学習していく。			
教材・題材開発研究 (身体と表現) C [体育基礎論]	体育原理(体育哲学)分野の教材・題材を開発する。体育原理分野の先行研究を踏まえ、体育の授業実践において用いられる術語や考え方を再検討し、学問の知見を授業実践に応用する方途を明らかにする。議論では社会的・歴史的さらに哲学的な視点を提供し、受講者の思索力を深めていく。			



教育実践力 コース科目	高度理 教 育 科 目	教科内容研究 (科学と数学) A [実験物理]	理科(物理)の教科内容のうち実験物理を扱う。現代物理学の実験に関して、それを支えた歴史的背景から実験装置、実験結果の意義、その後の社会の発展に与えた影響などに関して調査・報告を行う。一方で、有名な実験に関して、簡単な実験を行う。実験結果をレポートにまとめる。	
		教科内容研究 (科学と数学) A [有機化学]	小・中・高で取り扱う有機化学について、その知識を深めるとともに、必要に応じて実験を行うことで知識を実践する。	
		教科内容研究 (科学と数学) A [植物進化]	植物進化と多様性に関する、教材・題材の現代的課題についての解説を行うとともに、それに関する学校での関連した内容のトピックについての論文紹介を行い、それを用いた教材・題材開発を行う。	
		教科内容研究 (科学と数学) A [動物系統]	理科(生物)の教科内容のうち動物系統分類を扱う。動物界の系統分類は、従来の形態や発生といった形質を重視した、いわゆる伝統的な概念が元となっていたが、主に近年の分子系統学の進展により体系が大きく刷新された。この授業ではその変遷や新たに設立された分類群に言及し、できるだけ最新の知見や課題を学ぶ。	
		教科内容研究 (科学と数学) A [動物発生]	理科(生物)の教科内容のうち発生生物学分野の基礎的な内容を理解し、現在の課題を認識する。また、関連する分野の基礎的知識や技法などについても理解する。	
		教科内容研究 (科学と数学) A [気象]	小・中・高等学校理科の学習指導要領解説及び教科書を用いて、気象分野の内容について把握する。その上で、受講者が観察や実験を含むテーマを設定し、探究的な学習を行う授業を計画する。学習内容に関する気象学的な課題について、議論する。	
		教科内容研究 (科学と数学) A [天文]	高等学校地学の天文分野に関連する内容を扱う。	
		教科内容研究 (科学と数学) A [地質]	地質学分野に関わる教育内容及び指導方法に関して、演習や実習等を通して検討する。	
		教科内容研究 (科学と数学) B [木材加工]	技術教育における木材加工を扱う。木質系材料に関する新素材の製造技術あるいは新しい木材加工技術について取り上げ、その技術に関する将来の木材加工教育の内容について議論する。	
		教科内容研究 (科学と数学) B [金属加工]	金属加工に関わる教材等についての研究を指導する。そのため研究背景、従来研究と提案について明確にすること、そして提案を検証する方法と検証用データの整理、さらに研究論文の執筆・発表を目指した指導をする。	
		教科内容研究 (科学と数学) B [電気]	将来の教科内容となりうる電気の実用技術についての研究を指導する。研究背景や従来手法との差異の明確化、そして提案手法の検証方法やデータの分析を指導する。さらに、その技術に関する将来の教科内容について議論する。	
		教科内容研究 (科学と数学) B [情報]	情報に関わる教材等についての研究を指導する。そのため研究背景、従来研究と提案について明確にすること、そして提案を検証する方法と検証用データの整理、さらに研究論文の執筆・発表を目指した指導をする。	
		教科内容研究 (科学と数学) B [栽培]	栽培分野領域の現在の教科内容を踏まえ、ICTやアクティブラーニングを取り入れた新しい教科内容を研究することにより、次世代の教材として利用できる題材を先端的に研究開発する。	
		教科内容研究 (科学と数学) C [代数]	算数・数学の学習内容や方法を、「代数学」の観点から先端的に研究する。	
		教科内容研究 (科学と数学) C [幾何]	算数・数学の学習内容や方法を、「幾何学」の観点から先端的に研究するためには、数学的思考、特に幾何学的思考を行えることが必要である。そのためには、幾何学に関する深い「主体的・対話的で深い学び」の育成が必要である。課題意識に基づいた教材・題材の開発を行い、得られた結果を詳しく検討する。	
		教科内容研究 (科学と数学) C [解析]	小・中・高等学校の算数・数学を一貫した教科として捉え、児童・生徒の資質能力の育成を念頭に置き、特に解析学の学習内容を先端的に研究する。現代解析学の理論に基づいた教材の開発及び検証を行う。	
		教科内容研究 (科学と数学) C [確率]	小・中・高等学校を見通した算数・数学教育は児童・生徒の算数・数学学習での思考・態度を育てる観点において重要であり、その背景となる数学の深い理解が必要となる。そのために、算数・数学の学習内容や方法を、「確率論」の観点から先端的に研究する。教員の算数・数学に関する「主体的・対話的で深い学び」の育成のために、課題意識に基づいた教材・題材を開発し検討する。	
		教科内容研究 (科学と数学) C [応用数学]	小・中・高等学校を見通した算数・数学教育は児童・生徒の算数・数学学習での思考・態度を育てる観点において重要であり、その背景となる数学の深い理解が必要となる。そのために、算数・数学の学習内容や方法を、「応用数学」の観点から先端的に研究する。教員の算数・数学に関する「主体的・対話的で深い学び」の育成のために、課題意識に基づいた教材・題材を開発し検討する。	
		教科内容研究 (科学と数学) C [数学教育]	数学教育学の諸理論(認知論・認識論、学習論、活動論)を学び、それらを用いて、算数・数学教育に関する様々な現象を分析したり理解したりすることを通して、数学教育学の研究手法論およびその実践的応用に関する討議と演習を行う。	

特別支援教育 コース科目	コース 共通科目	インクルーシブ教育の理論と実際	国際的な課題となっているインクルーシブ教育について、国内外のインクルーシブ教育の動向をふまえて、日本のインクルーシブ教育システムの現状と課題について、合理的配慮、ユニバーサルデザインのカリキュラム・授業、交流及び共同学習、障がい理解教育の観点から、演習を通して検討を加え、実践力を培う。	共同
		特別支援教育コーディネーター論	本科目の授業構成は、以下に示す内容を網羅することで校内のキーパーソンとしての「特別支援教育コーディネーター」としての役割を意識し、今後の特別支援教育の推進役となる人材を育成する。 1特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの役割とセンターの機能についての理解と運用について 2小中学校及び高等学校の特別支援教育コーディネーターの役割と発達障がい等のある子どもへの理解と指導・支援の在り方の探求 3学校における組織体制の在り方としての「校内支援体制の構築」及び「関係機関との連携」の在り方 4様々な支援を必要とする事例に基づくアセスメントから「個別の指導計画」作成につながる方策を行う 5教育相談技能及びコンサルテーションの方法及びその応用	
		特別なニーズのある子どもの心理的理解と支援	特別なニーズのある子ども、障がいのある子どもやそれ以外のニーズのある子ども（たとえば、被虐待児、不登校児など）を理解していく上で必要となる心理学の理論や技法について、障がい種別あるいは課題別に解説し、それぞれのニーズに応じた支援の実践についても心理学の観点から解説するとともに、事例検討などを通して実践的な理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （ /4回） ・特別なニーズのある子どもの心理、支援 ・視覚障がい児の心理的理解、心理的支援 （ /4回） ・聴覚障がい児の心理的理解、心理的支援 ・その他のニーズのある子どもの心理的理解、心理的支援 （ /2回） ・病弱児の心理的理解、心理的支援 （ /5回） ・発達障がい児の心理的理解、心理的支援 ・その他の障がいのある子どもの心理的理解、心理的支援 ・まとめ	オムニバス
		特別なニーズのある子どもの生理と病理	特別なニーズが必要となる子どもの包括的理解のために、中枢神経系と末梢神経系、運動器と感覚器についての基礎的な知識を修得した上で、身体障がい、発達障がい、精神障がい、高次機能障がいの病理について理解を深める。	
		特別なニーズのある子どもの臨床	特別なニーズのある子どもへの教育支援・生活支援などの実践にあたって、子ども一人ひとりのニーズをいかに捉え、いかに効果的な支援を行っていくかについて、病弱教育を中心としながら実際の臨床場面を想定した演習をまじえながら授業を展開することで、学校現場で求められる臨床的アプローチの知識と技能を習得する。	
		発達障がいのある子どもの理解と支援	発達障がいに関して、主に、学習障がい、注意欠如・多動症、自閉スペクトラム症、発達性協調運動症を取り上げ、障がいの種類ごとに、定義、原因、診断評価、心理・行動特性を講義する。また、その特性に応じた指導・支援を講義・討論する。本授業を通して、発達障がいに関する基礎的知識に基づき、具体的に個々のニーズに応じた指導・支援を選択・考案できる視点を学ぶ。	
		特別支援教育の現代的課題	特別支援教育をめぐる現在の教育・研究の動向について、特別支援教育学・特別支援心理学・特別支援臨床学の各専門分野から多角的に講義を行う。 （オムニバス方式／全15回） （ /1回）・特別支援教育における現代的課題：心理学の視点から （ /1回）・特別支援教育の動向 （ /2回） ・特別支援教育における現代的課題：教育学の視点から ・知的障がい教育における現代的課題 （ /1回） ・特別支援教育における現代的課題：医学・臨床学の視点から （ /1回）・視覚障がい教育における現代的課題 （ /1回）・聴覚障がい教育における現代的課題 （ /3回） ・肢体不自由教育、情緒障がい教育、重複障がい教育における現代的課題 （ /1回）・病弱教育における現代的課題 （ /2回）・発達障がい教育、言語障がい教育における現代的課題 （ /2回） ・障がい以外に起因するニーズに対応する教育における現代的課題 ・まとめ	オムニバス
		発達支援教育実践論	特別支援教育の現状と課題を概説し、発達の観点からみた教育支援について具体的に論じる。また、特別支援教育の対象となる幼児・児童・生徒のアセスメントを行っていく上で必要な理論と技法について解説する。さらに、各種心理検査によるアセスメントの演習を通して実践的な技能を身につけると同時に、その結果をいかにして教育支援へと結びつけていくかについて議論する。	
		特別支援教育の教育課程と授業論	特別支援教育の教育課程編成について、「特別支援学校学習指導要領」の変遷や個別の指導計画等との関連を通して、特別支援教育の教育課程の「4つの類型」等の意義と課題について講義を行う。また、特別なニーズのある子どもの発達年齢や生活年齢をふまえた教育目標（ねらい）の設定、教育内容の設定、教材・教具づくり、教師（集団）の指導性のあり方等について、授業実践例を参照しつつ特別支援教育の授業論について演習を通して検討を加える。	共同
教育相談支援の理論と実際	特別支援教育の対象となる幼児・児童・生徒への教育相談の在り方について、講義を通じてエビデンスに基づいた支援内容を理解すると同時に、具体的事例への支援について演習を通じて検討し、教育相談を実際に行う上で必要な実践力を身につける。			
課題 研究 科目	実践課題研究 I	受講生に、教職大学院における1年次での学びの成果を踏まえて、自らの実践的な研究課題に対する問題意識がどのように発展してきたかを省察させる。そして、それをさらに追究させるための計画を立案させ、遂行させる。その過程において、課題解決のプロセスをPDCAサイクルに基づいて自己点検・評価させるとともに、教育委員会のスタッフ等とのコミュニケーションの中で相対化させる。それらを通じて、自らの実践的な研究課題の解決を幼稚園・学校や地域の教育課題の解決とつなぐ意識を育てる。		
	実践課題研究 II	受講生に、実践課題研究 I の成果と課題を整理させる。そして、それに基づいて、実践的な研究課題の解決のための計画を修正させ、遂行させる。その過程においても、課題追究のプロセスを、PDCAサイクルに基づいて自己点検・評価させるとともに、教育委員会のスタッフ、当該課題を専門的に研究しているコミュニティ等とのコミュニケーションの中で相対化させる。これらを通じて、自らの実践的な研究課題の解決を学校や地域の教育課題の解決とつなぐ意識をさらに育てる。		